

第11回網走市選択する未来会議発言要旨（令和2年8月12日（水））

～第1期網走市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について、資料に基づき事務局より説明～

●議長

事務局から説明がございましたが、委員・オブザーバーの皆様の方から、ご意見・ご質問等があれば挙手いただきたいと思います。何かございませんか。

○委員

網走市出身の若者が戻ってくる例はあるか。

●事務局

若者の定住は網走市の課題だと認識しています。

現在、東京農大には1,500人程度の学生が在籍しており、9割以上が道外出身者である。卒業後市内に定住していただけるようにしたいと考えておりますが、雇用のミスマッチなどもあり、現時点では効果的な手を打てていないのが現状です。

○委員

東京農大生はもちろん、網走出身者が戻ってこられる場所を作る必要がある。

●事務局

商工会議所と連携してU・Iターンなどの促進に取り組んでいますが、なかなか成果があがっていない状況です。

○オブザーバー

若者が戻るかということについては、どこの町も厳しい状況にあると思うが、新型コロナウイルスの影響で、地方が注目されていることも事実としてあるようだ。北海道については非常に魅力的な土地と認識されていると思うが、若者を呼び込むためには、働きたくなるような企業をつくるか、呼ぶかしかない。

例えば、北見市では「鮭モデル」という取り組みをしている。東京のIT企業で数年働いて、その後北見に戻って同社の社員として北見で働くというもの。東京の会社に属しながら北見で働くということになる。

こういった事例は全国にあると思うので、地元の中だけで協議するのではなく、まずは研究する必要があると思う。

○委員

私の実家は埼玉で農家を営んでおり、私は卒業後実家に戻ろうと考えている。網走の一次産業を営む家庭の子どもたちが、実家に戻りたくなるような施策があれば良いと思う。

○委員

東京農業大学オホーツクキャンパスには食香粧化学科などユニークな研究をしている学科がある。関連企業の誘致ができれば良いと思う。

○委員

市役所にも市外出身者がいると思うので、そういう方に意見を聞くのも良いのでは。

○委員

幸いなことに漁業に関しては後継者が育っている。これは網走の漁業が稼げる仕事として成立しているからだと考えている。

仕事と遊びの区別もしっかりできている点も大きい。中には高学歴な子どもが網走に戻ってきて事業を継いでいるケースもある。

ただ、大量に捕って大量に売るという現状から、今後は東京農大の協力も得ながら雇用を創出できるような新しいスタイルを作っていきたいと考えている。

○委員

現在、網走市には多くの支援を必要とする子どもがいるが、受け皿が不足していると感じている。就学までの支援にもっと力を入れてほしい。

また、保育士も不足している。市も募集してくれているがなかなか集まらないのが現状だと思う。高校生が進路を決めて網走を出ていくまでに、資格を取っていずれは網走に戻ってきてもらえるように、例えば合同説明会のような網走市としてPRする場があれば良いと思う。

●事務局

就学までの支援の体制についてはこれまでも取り組んでおり、「ことばの教室」から始まり「療育センター」になり、現在は「こども発達支援センターふわり」で言語以外の子どもたちの受け入れも行っています。ただ、専門職は保育士しかいない状態が長く続いており、美幌の療育院や帯広の緑ヶ丘病院などから専門職の方に来ていただくなどの対応をしてきました。

今年度によりやく言語聴覚士を採用することができ、体制整備の足掛かりができたと考えておりますが、依然として専門職の方の確保は難しい状況にあり、就学前の子どもに対する支援体制が不十分であると考えております。

問題としては、有資格者の数がそもそも少ないことに加えて、都会に集中しており地方都市にはなかなか来てもらえないということがあります。

これらについては、課題だと認識しておりまして、ここに取り組んでいく必要があると考えております。

○委員

また、学校では支援学級と通常学級が分かれているが、児童センターには双方の子どもが一斉に訪れる。そのため、ここでも人手が足りていない。現場は大変苦しい状況である。

●事務局

学童に関してはNPO法人などで放課後の活動を支える取り組みを行っていたり、社会教

育の中でも子どもたちの活動の場を設けるという取り組みもありますので、そこについては
いただいたご意見を担当部署にも伝えます。

また、合同説明会については今後私たちも勉強していきたいと考えております。

○委員

看護師不足は慢性化している。網走の高等看護学校も新規募集をしないと聞いている。水
谷市長も北海道に陳情されているが、非常に心配である。

オホーツク圏として考えていかないと、5年、10年後が危惧される。

○委員

新型コロナウイルス感染症の影響で商工会でも20～30社が廃業もしくは倒産している。
2040年までに人口が減るとされているが、新庁舎の建設は起爆剤になる。

行政の手腕に期待している。協力してやっていきたいと考えている。

○委員

高齢者はこれからもっと増える。介護業界は離職が多いと聞く。報酬も安く、従事者は
将来設計ができないことも要因だと思う。何か手を打たないと増える高齢者を見る人がいな
くなってしまう。

●事務局

介護業界に関しては賃金だけでなく、業務自体がハードであることも影響していると考え
ている。外国人労働者の受け入れも含めて検討していくことになると考えております。

●議長

委員の皆様ご意見ありがとうございました。こういった話をする事で網走市の強みや弱
みが見えてきます。これもこの会議の成果だと思っております。

議題（1）については以上で終了させていただきますが、その他事務局から何かございま
すか。

●事務局

新型コロナウイルス感染症対策として、4月以降これまで、補正予算を編成し種々の事業
に取り組んできております。

これらの財源は、多くは国からのお金により実施しておりますが、感染拡大防止の取り組
みだけでなく、雇用維持や事業継続、経済活動の回復、強靱な経済構造の構築を視野に入
れた取り組みとなるよう、地方創生臨時交付金が充てられています。総合戦略とは直接の関
係はありませんが、地方創生につながる取り組みが前提でありますため、この機会に改めて
皆さまへ紹介いたします。

～別紙資料 新型コロナウイルス感染症緊急対策事業に基づき説明～

●事務局

本日は、貴重なご意見をありがとうございました。

新型コロナウイルス感染症の影響で書面でのご報告とさせていただきましたが、第2期あばしり市まち・ひと・しごと創生総合戦略については、本年3月に策定を終え、すでに各取り組みが始まっております。

委員の皆様におかれましては、今後とも本戦略の取り組み、進捗状況へのご意見・ご協力の程、よろしくお願いいたします。

(以上)